

院中の事も禁中已下の家も銘々もちゆとみえたり

〔嘉永年中行事〕正月朔日略中うけとり、簾臺の中央西に迫りて御茵ばかりを敷きうけとり

を供す御垂纓御袴をめす也下段に女御は南面に典侍は東西に内侍は下段の外な、めに東

面に候ず初獻菱花びら二獻かべを供す女御へも菱花びらきじ出る女中にも給ふ二獻の時

始めて屠蘇白散の入たる御銚子を供す白散は本より上段の西北の角に置く御手長の内侍

簾臺をへて白散の許に進み白散を入れて御陪膳の人の許に進み寄り御銚子を供す二獻の時

受取進上の人何れも天盃を給ふ伊豫酌なり命婦も同じ御差の人は御またまの御盃を申の

口にて給ふ三箇日の間女中かはるくうけとりを進上する也

〔年中御祝儀記〕初獻三ツ肴小刺數子二獻菓之餅花び三獻きじ右は請取之御獻ト申女中方

より元日二日三日之間替々上ル但三ツ肴は御臺より上ル

〔禁中當時年中行事〕御獻初獻二獻三獻元日二日三日自女中方巡番役供之獻

〔日次紀事〕十一月晦日屠蘇白散典藥頭丹波氏獻屠蘇并白散度嶮散之三種於禁裏院中是則元日之所充御用也又獻御膏藥

〔西宮記〕正月上供御藥事

天德五年正月一日御記云供御藥如例今日尙藥女藏人等不着摺衣夾纈裳用尋常裳等

康保三年正月御記云藥女孀例著潔衣供之而稱所給絹麤惡之由至于今日不著不可爲例

九記云天曆二年正月一日依典藥當色遲給不供御藥云々

〔小右記〕永觀二年正月一日參内未時供御藥如恒今日後取時中朝臣申有所勞仍以共政朝臣令奉

仕

〔左經記〕寛仁二年正月一日乙未晚景供御藥御生氣御衣御匣殿依遲被奉及晚也

〔小右記〕寛仁三年正月一日己未未刻許參入先是被參大殿云々仍參内參上殿上卿相同候前大府